

## 国会議員生活63年、ギネスブックの政治家・尾崎行雄

前坂 俊之(静岡県立大学国際関係学部教授)

今年が参議院発足から六十年。

グローバル化に翻弄され沈没寸前の日本で、今最も必要とされるのは世界で通用する真の国際的政治家である。あまりに国内の地元利益のみにこだわり、汲々とする小粒な2世、3世の世襲議員が多すぎる。



昭和戦前は、「井の中の蛙の軍人たち」が暴走して国を滅ぼしたが、今、「井の中の鯨」となった日本を自覚せず、相変わらず外交の操船に失敗し続けているこれらの政治家たちが滅ぼすであろう。

そうした意味で、第一回衆院選挙から63年間議席を持ち続けた世界議会史上最長のギネス政治家・尾崎行雄が今、再び脚光を浴びている。

尾崎行雄(愕堂)は安政5年(1858)、相模国津久井県(現神奈川県相模原市)に生まれた。新聞記者、東京府会議員のあと、明治二十三年(一八九〇)七月のわが国初の総選挙で当選。以来、連続当選実に二十五回、昭和二十八年まで六十三年間にわたって議員生活をおくり、日本の「議会政治の父」、「憲政の神様」と謳われた。

尾崎は自由主義者で生涯、立憲政治を打ち立てることに情熱を注ぎ、明治、大正、昭和の三代にわたって政党の敵であった藩閥政治や官僚政治、軍閥政治と体をはって戦った。



犬養毅とならんで議会を代表する雄弁家として鳴らしたが、尾崎の演説は筋道が通りわかりやすかった、という。

明治39年(1906)には尾崎三良とイギリス女性との間に生まれたオドラ夫人と再婚した。

イギリス、米国など海外生活、外遊の豊富な経験を積んでおり、こうしたグローバルな知識は同世代の政治家の中では傑出しており、こうした世界的な視野の中で尾崎は政治思想を形成していった。

尾崎が華々しく活躍したのは、大正期のいわゆる大正護憲運動で、「彼らは口を開けば忠君愛国をとねえるが、常に玉座の陰にかくれて政敵を狙撃する」と火を吐くような内閣弾劾演説を行い藩閥政治の象徴だった桂太郎内閣を倒した。

以後、犬養毅と並んで「憲政の二柱」と讃えられた。

「日米をかける友好の桜」として有名な米国・ワシントンのポトマック河畔の桜を贈ったのは尾崎だが、衆院議員と兼務だった東京市長時代の明治四十五（1912）年に、タフト米国务長官夫人から「桜の木を贈ってほしい」という要望があった。



日露戦争での米国の多大な援助に対する感謝の気持ちもこめて尾崎は三千本の桜を送った。これがりっぱに成長し、今では日米友好のシンボルとなった。尾崎は「政は正なり」という言葉を愛し、一貫して良心と道理と正義にのっとり政治を行った。

政治生活もただ長ければよいというものではない。何をやったかこそ問題だが、尾崎は2つの「ふせん」にその政治生命をかけた。

「普選」（普通選挙運動）と「不戦」（軍縮・平和）であり、大正期では「普選」運動の先頭に立ち、これを実現し、昭和に入って軍部ファシズムが高まってくると、軍縮を叫び、軍国主義反対、武力を排する平和主義、国際主義を主張した。

齢七十歳を超えても、尾崎の気力は一向に衰えず、軍部にきびしい批判し、五・一五事件で僚友の犬養がテロに倒れた後は、ただ一人体を張ってファシズムに抵抗した。

昭和十七年四月、東条首相の翼賛選挙を厳しく批判する公開質問状を出し、友人の応援演説で「売り家と唐様でかく三代目」と言ったのが、不敬罪に当たるとして起訴され、八十五歳で巣鴨刑務所に拘置された。

昭和二十（1945）年八月、予言通りの敗戦、亡国。尾崎は88歳だが、戦後は一躍「憲政の神様」「護憲の神様」として復活して、マスコミから脚光を浴びた。

終戦後初の議会では、第2次世界大戦の教訓を生かして「世界連邦論」をいち早く唱えたが、新憲法に盛り込まれた民主主義の各ルールには尾崎の長年主張が数多く取り入れられた。



昭和二十五年五月、グルー、キャッスル米駐日大使ら知日家が集まった「日本問題審議会」から、講和条約締結に向けて米世論の支持をもとめて招待され、九十三歳の尾崎は四十日間にわたって渡米して、全米各地で大歓迎を受けた。

ニューヨークではグルーや湯川秀樹ら約二百五十人が集まり大歓迎会が開かれ、ここでも世界連邦論をぶって『ニューヨークタイムス』『ニューズウィーク』など米マスコミは尾崎を「日本の良心」と賛えた。

昭和二十八年四月の総選挙で三重県で立候補したが落選し、ついに九十六歳で議員生活にピリオドを打ち、翌年十月、九十七歳で亡くなった。

日本の政治史をふりかえると、尾崎に匹敵する国際的な政治家は伊藤博文、吉田茂くらいなもので、ますます政治家が小粒になっている。

戦後の急速な経済復興と、経済大国化なかで、＜経済1流、政治は3流＞といわれたが、1990年のバブル経済の崩壊、その後の経済敗戦の第一の責任は政治家の舵とりの失敗である。

問題はその後の政治の経済失政が続く中で、国の借金は1000兆円まで膨れ上がり、日本丸は刻一刻とノーリターンポイントに流されているのに、政治家の＜問題先送りの病＞は連綿と繰り返されている

(禁転載)